

2020年6月18日 18:00付 韓国農林畜産食品部プレスリリース

集中豪雨時のASF 予防管理を強化

<https://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QEB8JTJGYmJzJTJGblWFmcmElMkY2OCUyRjMyNDEwMiUyRmFydGNsVmllldy5kbyUzRmJic0NsU2VxJTNEJTI2aXNWaWV3TWluZSUzRGZhbHNlJTI2cmdzRW5kZGVtdHlM0QlMjZwYWdlJTNEMSUyNmJic09wZW5XcmRTZXElM0QlMjZyZ3NCZ25kZVN0ciUzRCUyNnNyY2hXcmQlM0QlMjZwYXNzd29yZCUzRCUyNnNyY2hDb2x1bW4lM0QlMjZyb3clM0QxMlCUyNg%3D%3D>

1. 推進の背景

ASF 中央事故収拾本部（以下、本部。本部長：農食品部キム・ヒョンス長官）は、梅雨、ASF 発生リスク増大と農場の予防効果低下による養豚農場内へのウイルス侵入を防ぐため、「集中豪雨時 ASF 予防強化対策」を推進する。

※梅雨の時期は、降雨や強風によって国境地域の ASF ウイルスが河川や土砂等に混ざり、農場に ASF ウイルスが侵入するおそれがある危険な時期であり、徹底した予防が必要となる。降雨や強風によって農場に設置したイノシシ忌避剤や遮断予防施設が吹き飛ばされたり、農場入口に散布した生石灰が雨によって流されたり、消毒液が希釈されて薬効が落ちたりする等、予防が困難となる。

2. 推進内容

(1)集中豪雨前：ASF 危険注意報発令と梅雨の予防上の注意を促す

本部は集中豪雨が始まる前、梅雨の「ASF 危険注意報」を発令し、国境地域の養豚農場、予防機関等を対象に、梅雨の予防上の注意を呼び掛ける。

○注意報は、①京畿・江原地域で大雨注意報（または特報）発令時、または②ASF 発生地域である国境地域の河川水位上昇（1m 以上）で発令し、リスクが解消されたと判断されれば解除される。

○「ASF 危険注意報」が発令されると、全国の自治体予防機関、京畿と江原北部の養豚農場 395 戸、畜産車両運転者に対し、「梅雨の予防上の注意」が公文書、文字（SMS）、字幕放送等を通じて周知される。また、自治体とハンドン協会からも農場に町放送、ホームページ公開等によって周知する。

※農林畜産検疫本部（家畜疾病状況室）からの危険注意報発令公文と家畜予防統合システム（KAHIS）を通じテキスト送信

【梅雨（集中豪雨期間）の予防上の注意内容】

①地下水を利用している農場は、豚の飲用水を上水道に切替え

*地下水を利用する場合、塩素系で消毒後利用

②周辺農地や河川、山への訪問を禁止し、外出を控える

③農場周辺のイノシシの死体発見時、直ちに環境部門に申告

④外部の者や車両の農場への進入を制限し、消毒を強化

⑤手洗い、長靴履替え、殺虫殺鼠等基本行動規範（22種類）を遵守

(2)集中豪雨期間：緊急対応態勢を維持し、予察強化

予防状況室運営：ASF 危険注意報が発令されると、全国市・道（市・郡）等の家畜予防機関からの派遣を24時間運営し緊急対応態勢を維持する。

○ASF 疑い事例がある場合、「ASF 緊急行動指針（SOP）」に従い、移動制限、精密検査、予察、本部への報告等が迅速に行われる。

広報と予察：集中豪雨期間中、京畿・江原北部の395農場に対し、梅雨の予防上の注意を集中広報する。また、毎日電話予察（家畜衛生予防本部・管轄郡）によって予防上の注意履行状況を随時確認し、農場で飼育されている豚に異常がないか確認する。

※豪雨期間中、畜舎内部の入念な消毒が推奨される

○農場周辺で野生イノシシやその死体が発見されているか確認し、発見された場合、緊急捕獲等の措置（市郡環境部門）をとる計画である。

(3)集中豪雨後：農場予防再整備と環境汚染検査

◇集中豪雨後「全国一斉消毒の日」を運営し、環境汚染検査、農場の生石灰ベルト構築等の点検、イノシシフェンスの再整備を行う

集中消毒：

集中豪雨後、地方自治体、畜産協同組合共同防除団、軍用車両、広域防除機等、使用可能な資源を投入し、全国の養豚農場と境界地域の主要道路に対し消毒を実施する。

集中豪雨の翌日を「全国一斉消毒の日」を指定し、全国の養豚農場や屠殺場等畜産関係施設に対する一斉消毒を実施する。

また、農場主の自発的な消毒を促すため、ハンドン協会と協力し、全国の養豚農場を対象に、文字、カカオトーク等のSNS、ホームページ公開等を通じ、徹底した消毒を奨励する。

※畜産施設内外、出入口、出入りする車両の集中消毒を実施

非武装地帯（DMZ）・民統線内外では、野生イノシシからのASF 検出ポイントと埋却地、国境地域水路と隣接道路等の高リスク地域を広範囲に消毒

- DMZ 通門（73箇所）と民統線出入口（69箇所）の周辺に生石灰を再散布（国防部）し、出入りする車両・人を徹底的に消毒する。

環境汚染検査：

集中豪雨後に発生地域 42 カ所の地下水と臨津江等国境地域 12 か所以上の河川、イノシシ ASF 検出ポイント由来の小河川・溝等で水、浮遊物等の環境試料を採取し検査を実施する。

※農林畜産検査本部と国立環境科学院、自治体による試料採取と精密検査

農場点検：

集中豪雨後、養豚農場は生石灰を新たに散布することによって生石灰ベルトを構築し、イノシシ忌避剤の再設置等、予防態勢を整える。

京畿・江原北部 395 戸農場の外部フェンス・車両消毒施設等、予防施設が正常に導入されているか・動作するか、農場入口の生石灰散布状態を一斉点検する。

イノシシフェンス：

広域フェンス（483km）と 1・2 次フェンス 62 カ所を集中豪雨期間前後に現場点検し、不十分な点はすぐに補完する計画である。

※現場点検：環境部・国立生態院・郡環境部門、京畿・江原現場状況室

※主なチェック事項：地盤が弱まった場所、フェンス破損区間、フェンス地域周辺の排水状況、除草状態等

野生イノシシ埋却地：

イノシシ埋却地 479 箇所の高危険度の陽性埋却かについて梅雨期間の前後に安全管理の実態を点検し、不十分な点はすぐに補完する計画である。

※現場点検：環境庁・郡環境部門、競技・江原現場状況室

主なチェック事項：埋却状態、立入り禁止の案内板や遮断施設の設置有無

3. 要請事項

農食品部イジェウク次官は「全国の養豚農家と畜産関係施設では、危険注意報が発令された際は、集中豪雨期間は予防上の注意事項を意識し、集中豪雨後は農場出入口への生石灰再散布、消毒液の交換、消毒も積極的にしてほしい」と要請した。環境省ホンジョング次官は「梅雨、野生イノシシ埋却地とフェンスを自治体等が常時現場を確認をし、不十分な箇所が見つかった場合、すぐに補完されるよう協力してほしい」と呼びかけた。

以上